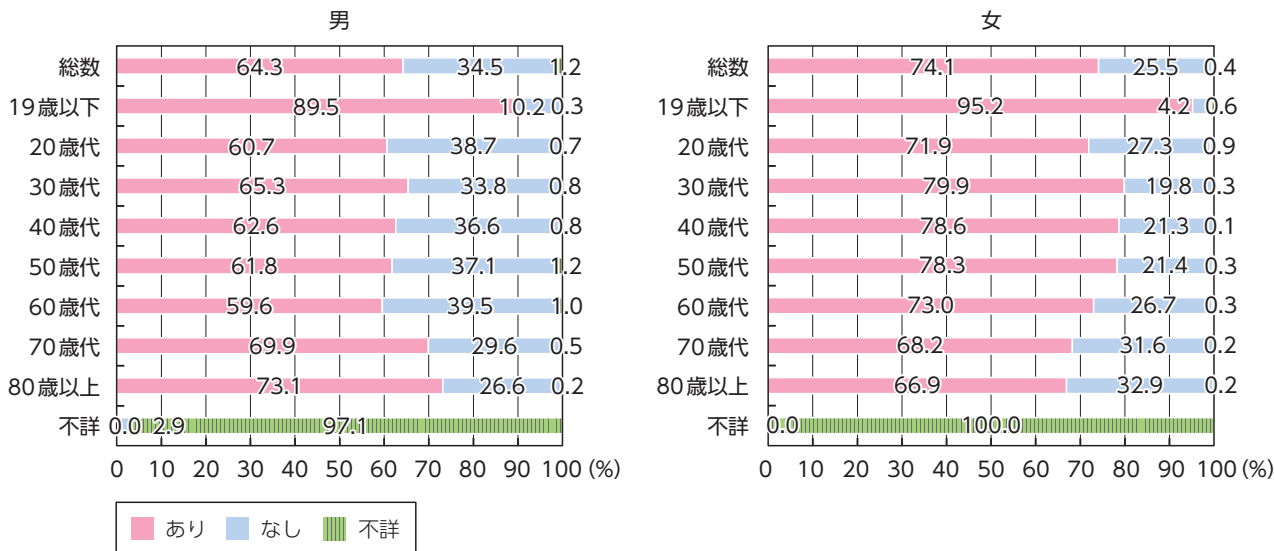


## 7 同居人・配偶関係別の自殺の状況

平成28年における同居人別の自殺の状況について、自殺統計によれば（第1-33図）、男

女とも、全ての年齢階級で、同居人「あり」が多くなっている。

第1-33図 平成28年における同居人の状況別自殺者数の構成割合



資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

次に、平成27年における配偶関係別の自殺死亡率の状況を見ると（第1-34表）、男女とも「有配偶者」は全ての年齢階級で各年代別の総数よりも低くなっている一方、「未婚」、

「死別」、「離別」は各年代別の総数よりも高くなっている。特に、男性の「離別」が高くなっている。

第1-34表 平成27年における配偶関係別の自殺死亡率(配偶関係別人口10万人当たり)の状況

		男					
年齢階級	総数 <sup>1)</sup>	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	
総数 <sup>2)</sup>	30.5	26.9	27.8	31.0	36.5	33.2	
有配偶者	21.4	12.7	13.1	18.3	23.4	25.0	
未婚	35.8	30.3	42.4	46.5	56.8	57.6	
死別	61.0	—	85.4	95.1	71.1	59.8	
離別	118.0	178.9	165.9	126.8	127.6	95.3	

		女					
年齢階級	総数 <sup>1)</sup>	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	
総数 <sup>2)</sup>	12.2	9.7	10.0	11.8	13.1	14.2	
有配偶者	9.2	3.9	5.5	7.5	10.5	11.4	
未婚	12.9	11.2	16.5	20.3	19.1	19.1	
死別	17.5	—	68.7	28.1	19.8	17.2	
離別	28.0	45.8	33.6	30.1	26.3	24.8	

注意：1) 総数には15～19歳及び年齢不詳を含む。

2) 総数には配偶関係不詳を含む。

資料：厚生労働省「人口動態統計」再集計及び国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集(2017)」より厚生労働省自殺対策推進室作成